



いわて鳥獣保護センター通信

第八号

発行日

平成23年7月4日

○現在の収容鳥獣と救護状況



タヌキ(幼獣)

獣類	
ホンシュウジカ	オス1、メス1
タヌキ	オス3、メス7
ノウサギ	オス1
猛禽類	
トビ	10
ノスリ	4
フクロウ	5
チョウゲンボウ	3
サシバ	1
オオコノハズク	1
その他の鳥類	
オオハクチョウ	19
コハクチョウ	2
カルガモ	10
マガン	1
ヒシクイ	1

現在、当センターで終生飼育されている野生鳥獣の収容状況を右上の表に示します。

平成23年の4月1日から7月1日の間にセンターに搬入された野生鳥獣の内訳は個体数の多い順にカルガモ(23)、タヌキ(14)、フクロウ(8)、スズメ(6)、ニホンカモシカ(6)、ムクドリ(4)、オオハクチョウ(3)、ツキノワグマ(2)、キジバト(2)、カワラバト(2)、ハシブトガラス(2)、コハクチョウ、キセキレイ、ハイタカ、アブラコウモリ、シメ、アナグマ、モズ、サシバ、コムクドリ、キジ、ノスリ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、ツバメ、ハクセキレイ、シジュウカラ、ハシボソガラス、種類不明の鳥類1羽の29種56個体でした。

この時期はヒナや幼獣の搬入が多い時期で、カルガモ23羽中ヒナが18羽、タヌキ14頭中10頭が幼獣と大きな割合を占めていましたが、例年に比べると全体のヒナの数は少ないようです。

さて、岩手県鳥獣保護センターでは冬場になるとハクチョウの搬入が増えるというのが決まっていますが、それ以外に特定の動物種が県内のいろんな場所から立て続けに搬入される不思議な“ラッシュ”が起こる事があります。昨年の春はフクロウのヒナが立て続けに持ち込まれ、一時は10羽もの大所帯になりました(今年は2羽)。トビばかり来た年もありますし、カワセミが続いた事もあります。今



シーズンは車や列車との交通事故に遭ったニホンカモシカが4週連続で持ち込まれるという異常事態で、この3カ月では6例にも及びました。また、過去3年間で1頭も持ち込まれた事のない離乳前の子タヌキがこれまた立て続けに持ち込まれ、昨年のフクロウを思い出させる合計10頭もの大所帯となりました。

哺乳からトイレの世話まで必要な赤ちゃん達ですが、今がかわいい盛りです。人の手で育てられたらどんなタヌキに育つでしょうか?!



鳥獣保護センターの収容施設が新しくなりました



昨年度の療養舎の工事から始まった鳥獣保護センターの施設改修工事がついに6月に終わり、鳥獣保護センターの施設が大きくリニューアルされました。

施設内の廃屋の撤去や改修工事とあわせて新築の収容施設が三棟完成し、敷地内の様子もすっかり明るくなりました!

上の写真は終生飼育の鳥類(おもに猛禽類)を収容する施設です。これまで使われていたキジの種鳥舎と基本構造は同じですが、外からの外敵(イタチやテン、ネズミなど)の侵入に強く、また哺乳類の収容も可能な頑丈な作りになっています。これはセンターの事務所前に設置され、終生飼育されているサシバやフクロウ、ノスリなどの大型猛禽類がまとめて観察できるようになりました。

右の写真は今回新しく設計された多目的ゲージです。これは大きく3部屋に分けたシンプルな構造の屋根付きゲージで、初期のリハビリや幼鳥・幼獣の訓練、時には雨の日の作業場としても使えるとても使い勝手のいい作りになっています。訓練待ちも大幅に解消され、すでにフクロウのヒナやチョウゲンボウが放鳥に向けた訓練を行っています。



また、昨年度に先だって建設された獣類舎も、収容動物の飼育経験の積み重ねによって様々な工夫が加えられました。キツネやタヌキ、アナグマなどの中型哺乳類にとって、飼育設備内の行動範囲は床面積に限られてしまいます。コンクリートの檻の隅に縮こまっているタヌキの様子をみて、日当たりが良くて外の景色も良く見える、二階建て、三階建てのテラス付きの遊び場を加えました。もとは野生の動物たちなので、人間が近づくと隠れてしまうのではないかと考えていましたが、キツネやアナグマも慣れてくると見晴らしのいいテラスでのんびりと過ごす事が多くなりました。ケガが治って外が恋しくなる頃が、野生復帰のタイミングかもしれませんね。



同じ獣類舎も、プールを作ればカルガモ親子の安全なシェルターになります。動物たちがより快適に過ごせるように、これからも工夫を凝らして活用していきます!



フクロウのペリットの観察



ペリットって、聞いたことありますか？鳥類には食べた物のうち、毛や骨、昆虫などの殻、食物繊維などの胃で消化できなかったものをペリットという塊にして吐き出す習性を持つものがあります。ですから、ペリットを観察するとその鳥がどんなものを食べていたのかを推察する事が出来ます。

左の写真はセンターに運び込まれてきたフクロウが翌日に吐き出したペリットです。いったいどんなものを食べていたのでしょうか？



全体的なペリットの印象は、灰色の繊維が絡まりあったフェルト状の塊でした。これを少しずつピンセットを使ってばらしていくと、小さな骨がいくつもあらわれました。この骨のうち、特徴的な形をした骨を並べていくと、ネズミの仲間の下顎の骨が二組、骨盤の骨が二組、大腿骨が二組あり、このフクロウがセンターに来る前に二匹のネズミを丸飲みしていたことが分かりました。運び込まれてくる直前までは元気で、ネズミを捕まえて食べていたんですね。

ネズミは人間にも害を及ぼすいろいろな病原体を持っているので、ネズミの残骸を含むペリットにも病原体が含まれている恐れがあります。ペリットを取り扱う時は決して素手で行わず、ビニールの手袋を着用したりピンセット等の道具を使うなど衛生面に十分注意してください。

クイズ! 僕だあれ?!



ヒント:

ボクは奥州市の住宅に迷い込んだところを保護されました。保護した人はボクの事を子犬だと思っていたそうです。

皆さんの身近な野生動物で、実は今回のセンター通信にも登場しています。さて、分かりますか?!

(答えは次のページ)



僕じゃないよ!

岩手県鳥獣保護センター

○所在地 〒020-0173 滝沢村滝沢字砂込390-29

○電話・FAX:019-688-4728

(不在の場合、お名前と連絡先を留守伝言のメッセージに残していただくと折り返し連絡します。)

○開所案内

年末～年始(12月29日～1月3日)を除く年中無休

午前8時30分から午後5時15分 (ただし、臨時に変更になる場合があります。)

○ケガや弱っている鳥獣を見つけたら、まず、ケガや衰弱の具合を見ることが大切です。むやみに手を触れたりせず、元気であればそっとしておいてください。ケガや衰弱のため、動けないようであれば、最寄りの広域振興局、総合支局、地方振興局保健福祉環境部又は保健福祉環境センターにお知らせください。なお、傷病鳥獣の状況により、しばらく様子を見守っている場合もあります。センターのスタッフが直接救護に向かうことは基本的にありません。

○鳥獣保護センターに傷病鳥獣を直接搬入される場合、それぞれの動物やケガ、症状に合わせた受け入れ態勢を整えて待機しますので、できるだけ事前にセンターまで連絡してもらえようお願いします。

○センターの見学や研修、野生鳥獣の貸し出しやボランティア活動などを希望される場合は所定の手続きが必要です。岩手県自然保護課もしくは鳥獣保護センターに連絡し、手続きについてお問い合わせください。

センターへのアクセス



クイズの答え：

今回はちょっと意地悪な問題でした。まず下の写真を見て、答えが正しいかももう一度考えてみてください。



答えは・・・タヌキです。全身の体毛が白くて、一見するとタヌキには見えませんよね。野生動物を扱っているとこんな変わった個体に出くわす事がたまにあります。このタヌキは虹彩や鼻、爪に色素があるのでいわゆる色素欠損の白子(アルビノ)ではありません。

でも「子犬に化けたいたずらタヌキ」なんて思った方が夢がありませんか!? タヌキに化かされた人は誰でしょう?